

【日時】2013年 **2月17日(日)**
13:30 (開場 13:00) ~ 17:00

スタディーグループ Esthetic Explorers (EE) は、歯科医師及び歯科技工士、並びに歯科関連の従事者が、歯科医療を探求するために集う勉強会です。多くの歯科従事者が EE にアクセスし、歯科に関する多くの情報を引き出して頂けることを願っています。

【演者】 **青井良太**先生
(あおいデンタルクリニック)
高井基普先生
(プレミアムデンタルケア恵比寿代官山)
中込敏夫先生
(JADE)



青井 良太先生 *Ryota AOI D.D.S.*

『天然歯とインプラント周囲のテッシュマネージメント』



高井 基普先生 *Motohiro TAKAI D.D.S.*

『Prosthetic Transformation in response to Tooth Position
～臼歯編～』



中込 敏夫先生 *Toshio NAKAGOMI R.D.T.*

『総義歯の形、そしてその作り込みについて』

【会場】 **AP 西新宿 (A室)**
新宿区西新宿 7-2-4 新宿喜楓ビル 5F
<http://www.ap-nishishinjuku.com>

【定員】 60名

【参加費】 無料
EE 会員・非会員共に年会費 7,000 円を、
申込期限迄に銀行振込にてお支払い下
さい。
申込期日 2013年2月8日(金)

【申込】 下記の申込用紙に必要事項を明記の上、
FAX または e-mail にてご返送ください。
EE からのメール配信をお受け取りの方
は、そのメールに返信して頂ければ結
構です。

【振込先】 三井住友銀行 笹塚支店 (普) 3611638
EE 事務局 会計 宮根 崇
(イーイージムキョク カイケイ ミヤネ タカン)

【懇親会】 17:30 より会場の近くにて懇親会を行
います。懇親会費は現地で集金致します。

【申込先】 **Esthetic Explorers** 事務局
東京都渋谷区笹塚 1-62-7-1004
TEL 03-5304-9310 FAX 03-5304-9312
esthetic.ex@gmail.com



【会場】 **AP 西新宿**
(新宿駅より徒歩7分)
新宿駅西口改札を出たら
地上に出ます。ビックカ
メラとユニクロの間の通
り(小滝橋通り)を直進。
新宿大ガード西交差点を
越え、次の信号の角にセ
イジョー薬局があります。
そのビルの5Fです。

2013年2月17日 EE定例勉強会 参加申込書

(ふりがな)

【氏名】

【勤務先名】

〒
【勤務先住所】

【TEL】

【FAX】

パソコンまたはスマートフォン
【e-mail】

【懇親会】 参加 ・ 不参加



青井 良太 先生 Ryota Aoi D. D. S.

演題『天然歯とインプラント周囲のティッシュマネジメント』

—失敗症例から学ぶリカバリー：根面被覆からサイナスアプローチまで—

昨今のインプラント治療においては、お金儲けにしか考えていない心無い歯科医師の治療が報道された事によって国民の信頼は大幅に低下した。どのインプラントメーカーのインプラントを使ったとしても成功率は変わらず記載してあり、業者主体の治療になっているのが現実であろう。2～3日のレクチャーを受ければ次の日からインプラント治療が行えることも事実であり、そのこと自体がトラブルや訴訟の問題に発展していくことが多いのではないだろうか。

今回の講演では、実際の臨床でのトラブル症例に対する原因の考察とリカバリーを行った症例を提示する。また、永続性のある治療をするための演者の考えを歯周形成外科から最新のサイナスアプローチまでをスライド写真を多く提示しながらディスカッションできればと考える。



青井良太先生 ご略歴

- 1994 朝日大学歯学部卒
- 1999 貴和会歯科新大阪診療所勤務
- 2002 JIADS 講師 (エンド・ペリオ・インプラント)
- 2003 貴和会歯科銀座ペリオ・インプラントセンター勤務
- 2007 あおいデンタルクリニック開業
麻布十番ペリオ・インプラントセンター開設
- 2009 Surgical Basic Course 開講

主な論文・著書

- 「予知性の高い歯内療法を求めて」シリーズ第1回 The Journal of JIADS CLUB 2003年 Vol.9 No.2 吉川宏一と共著
- 「予知性の高い歯内療法を求めて」シリーズ第2回 The Journal of JIADS CLUB 2003年 Vol.10 吉川宏一と共著
- 「21世紀の支台築造—ファイバーコアポストを用いた支台築造」現代の治療指針 2005Year Book ; ザ・クインテッセンス 宮前守寛・中村公雄らと共著
- 「予知性の高い歯内療法を求めて」シリーズ第3回 The Journal of JIADS CLUB 2005年 Vol.12 No.1 吉川宏一と共著
- 「歯周治療・補綴治療をふまえた歯内療法」ザ・クインテッセンス 2006年 3月号 中村公雄・小野善弘らと共著
- 「独断的な治療の反省から、チーム医療に参加して」21世の歯科臨床を読む～若手臨床家30人～ 2006年
- 「予知性の高い歯内療法を求めて」シリーズ第4回 The Journal of JIADS CLUB 2006年 Vol.13 No.1 吉川宏一と共著
- 「予知性の高いFoundation Restration」第一報 接着支台築造に適した象牙質を得るための根管治療 The Journal of JIADS CLUB 2007年 Vol.13 No.3 渥美克幸と共著
- 「安全で手際のよいNi-Ti ファイルの使用ポイント」①なぜNi-Tiなのか? ザ・クインテッセンス 2008年2月号
- 「安全で手際のよいNi-Ti ファイルの使用ポイント」②最大限の歯質の温存を目指して ザ・クインテッセンス 2008年6月号
- 「安全で手際のよいNi-Ti ファイルの使用ポイント」③効率の良い根管拡大・形成を行うために ザ・クインテッセンス 2008年10月号
- 特別座談会「エンドからの逆襲」澤田則宏、甲斐康晴、青井良太、福西一浩 ザ・クインテッセンス 2010年8月号
- 「THE REPORT- 第31回日本歯内療法学会学術大会 Ni-Ti バトル!? 日本のEndoを変える日、そして変わった日」ザ・クインテッセンス 2010年12月号 渥美克幸と共著
- 「My First Stage 治療期間の長期化からみえた課題」- 歯周治療と骨移植症例を通して - ザ・クインテッセンス 2011年3月号 三條直哉著 ～先輩Drからのメッセージ～としてコメント
- ENDOで臨床を大きく変えよう! 歯科治療の根幹ENDOで天然歯を守る「TF&K3」2011年7月 ザ・クインテッセンス別冊 Column:Another Side「どんな時も」ザ・クインテッセンス 2011年7月号
- 「天然歯を守るためのインプラント」という基本に帰ろう」失敗症例から適切な治療選択と時間軸を紐解く ザ・クインテッセンス 2011年8月号
- 「日常で必ず使える! 歯内療法克服の一手」歯を保存する診断、テクニック、マテリアルのすべて ザ・クインテッセンス Year Book 2013 :100-107



高井 基普 先生 Motohiro Takai D.D.S.

演題『Prosthetic Transformation in response to Tooth Position ～臼歯編～』

すべての歯科治療には、病因の分析が重要である。
そして、治療コンセプト・技術・生体材料を駆使し、新たな崩壊を避けるための戦略をたてなくてはならない。今回は、咬合再構成症例における大白歯部補綴に焦点を絞り、その戦略の一部を提示してみたいと思う。

**Premium Dental Care**
EBISU DAIKANYAMA**高井基普先生 ご略歴**

- 1973 岐阜県生まれ
- 1998 岡山大学歯学部卒業
- 1998 ナディアパークデンタルセンター勤務
- 1999 アン歯科（一宮市）勤務
- 2004 伊藤歯科医院（大阪市北区）勤務
- 2007 UCLA Visiting Fellow in Center for Esthetic Dentistry
東京ミッドタウンデンタウクリニック院長就任
- 2010 東京ミッドタウン先端歯科医療研究所
高井基普特別歯科外来設立
- 2011 Premium Dental Care EBISU・DAIKANYAMA 開業
補綴・咬合・治療計画セミナー インストラクター
5D-Japan ファンダメンタルコース インストラクター

主な論文・著書

- 座談会：ケース・ディスカッション ザ・クインテッセンス 2004年7・8月号
- 自然美と色 デンタル・エコー 2005年
- 座談会：ケース・ディスカッション ザ・クインテッセンス 2005年7月号
- 接着・合着 QDT 2005年10月号
- クリアフィル・マジェスティーの可能性 デンタル・マガジン 2006年
- ケース・プレゼンテーション コンベンショナルレストレーションズ8
- 支台築造 GC サークル 2006年
- 全国若手30人30症例 ザ・クインテッセンス
- プロビジョナル・レストレーションズ ザ・クインテッセンス 2006年7月号
- 連載“咬合を臨床的にとらえる” ザ・クインテッセンス 2006年10月号～2007年3月号
- 歯科汎用アクリル系レジン「プロビナイスファスト」について 日本歯科評論 2007年12月号
- デジタル口腔撮影装置「Eye Special C-I」について 日本歯科評論 2008年4月号
- 咬合の見地から補綴を考える ザ・クインテッセンス 2009年1月号
- 咬合の見地から補綴を考える QDT 2009年1月号
- SINBI 症例から学ぶ審美修復成功のポイント 永末書店
- インプラントへの期待と今後の課題 THE BONE 2009年7月号
- 未来歯科医学に向けてII 歯界展望 2009年10月号
- オールセラミックス・レストレーション 支台歯形成の理論と実際 医歯薬出版
- オクルーザル・トランスフォーメーション ザ・クインテッセンス 2010年9月号
- Q&A 一般歯科 “臼歯咬合面へのCR充填” Dental Diamond 2011年6月号
- あの先生は歯科医師人生でどんな本を読んできたんだろう？ QDT Art & Practice 2011年9月号
- インプラント補綴における4種の臼歯部咬合改良形態の選択肢とその特性 Quintessence Dental Implantology 別冊 2012



中込 敏夫 先生 Toshio Nakagomi R. D. T.

演題『総義歯の形、そしてその作り込みについて』

無歯顎患者にとって総義歯は、ものを食べる・嚥下する・発音等の機能的・生理的回復と同時に、健全な社会生活を営むための「自分らしさ」を取り戻すための重要な人工臓器となる。

総義歯治療は、大きく分けて二段階あると考えられる。第一段階は患者の口腔内環境を整え、その口腔内に高適合する総義歯を製作することである。第二段階は身体の変化に合わせて、装着した総義歯を調整しながら適合させ続けるということになる。生体は常に変化をし続けるが、我々が作りだした総義歯は咬合面の一部を除いてほぼ変化しないため、常に変化し続ける生体に合わせなければならない。これが、総義歯治療はリハビリテーションと呼ばれる所以となる。しかしこの第二段階を全うするためにも、第一段階の「生体に高適合する総義歯」づくりが最も重要であることが理解できる。

しかしながら、我々歯科医療従事者にとって総義歯治療は、その難易度がとても高いことが知られている。その理由は

1. 通常の歯科臨床で製作される補綴装置の中では質・量的に最大級であるにもかかわらず、製作するための情報が最も少ない
2. 患者の複雑な既往歴による、歯科への不信感の増加が認められることが多い
3. 比較的高齢者が多いため、口腔や全身になんらかの疾患を持ち合わせている場合が多い
4. 製作する際に用いる材料の量が多く、さらに不安定なものが多い
5. 補綴装置そのものが直接、脆弱な粘膜と接触し、咬合圧などの大きな力を受け止めなければならないなどである。

そのため歯科医療従事者、とりわけ歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士は、その目標とする「総義歯の形」を見定め、その形の作り込みに対して同じ目線で取り組んでいかなければならない。

本講演では、演者らが現在アプローチしている、「生体に高適合する総義歯」の製作方法について、その考え方と実際の術式に関して述べたいと思う。

中込敏夫先生 ご略歴

- 1963年 神奈川県生まれ
- 1984年 横浜歯科技術専門学校卒業
- 1984年 ファーストデンタルラボラトリー勤務
- 1985年 新宿アルプス歯科勤務
- 2006年 JADE (Japan ALPS Dental Evolution) 開設 代表
- 2007年 医療法人社団真正会 アルプス歯科専務理事就任
- 日本歯科技工士会生涯研修認定講師
- 日本歯科技工学会認定士
- 日本歯科審美学会認定士





中込 敏夫 先生

主な著書書籍・論文

- デンチャーカラーリングセット取り扱い説明書 ニッシン 1990年
 アドバンスシリーズ [3] 欠損歯列・無歯顎の診断と治療 医歯薬出版 1995
 MOD インレーの模型適合を簡単に向上させるワックス・埋没材の工夫 歯科技工 1996/4
 ポリガラスアートグラスの臨床応用 QDT 別冊 1997/10
 Total&Systematic Denture Making の提言 (前) 歯科技工 1998/9
 Total&Systematic Denture Making の提言 (後) 歯科技工 1998/10
 初心者のための総義歯製作法 第四章 クインテッセンス社 1999/9
 Bio-Ecological Esthetic Denture 「デンタル・エステティック Part6」 2002/1
 総義歯技工の臨床ポイントをめぐって QDT 2002/9
 新世代人工歯の機能性を探る QDT 2003/1
 シェード調整用ペイントレジンの有効性 QDT 2003/1
 陶材硬化液 (CHL-1) によるオリジナル臼歯部人工陶歯の製作 QDT 2005/4
 歯科医師と歯科技工士の「未来型連携プレー」 Session4: 歯科医院と融合し、環境作りに貢献する
 一補綴物製作は院内コミュニケーションから QDT 2005/6
 機能性と審美性を兼ね備えた総義歯配列法 QDT 2005/9
 総義歯における審美的・機能的な Polished Surface の回復 QDT 2005/11
 マスターピース コラボレーションが生み出す総義歯の姿 QDT 2006/3
 審美的・機能的総義歯製作のための人工歯排列のポイント 歯科審美第18巻第2号
 ART Message ZERO publishing2008/1
 床用レジンの高精度の重合を目指した新システムの開発 (前編) QDT 2008/1
 床用レジンの高精度の重合を目指した新システムの開発 (後編) QDT 2008/2
 チーム; 総義歯; 医療のツボ QDT2008/1~2009/3 (全15回)
 乾燥したクリーンエアを得るためのコンプレッサーとエアードライヤーについて 日本歯技 2008/4
 次世代の歯科技工士育成を考える 歯科技工 2009/7
 総義歯の審美性について 「歯科審美」第22巻 第1号/2009
 審美歯科技工の原理・原則1 (編集) 医歯薬出版 2009/11
 歯列の形 歯科技工別冊「審美歯科技工の原理・原則1」2009/11
 総義歯の謎を解き明かす 永末書店 2010/3
 日本の科学技術と歯科技工「The Power of Dental Technology」ZERO、永末 2011/7
 床義歯の審美 (編集) 歯科技工別冊 医歯薬出版 2011/11
 義歯床の形態・機能・色彩 歯科技工別冊「審美歯科技工の原理・原則3」2011/11
 総義歯の秘密 アンチエイジング歯科学会誌 Vol.3 2011
 義歯に血の通うまで~アルプス歯科の総義歯製作技法 サンバレー書房 2012/1
 床義歯粘膜面の研磨を定義する~マルチコーンを用いたエアラップ法による鏡面研磨について
 歯科技工 2012/7
 デンチャーカラーリングセット取り扱い説明書 (改訂版) ニッシン 2012/10
 臨床技工材料学の本 (編集) 歯科技工別冊 2012/12
 総義歯の「形」を作り込む (対談) 歯科技工 2013/1
 総義歯が解れば技工がワカル 歯科技工 2013/2~12 (12回連載: 予定)



【会場】AP 西新宿 (A 室)

東京都新宿区西新宿 7-2-4 新宿喜楓ビル 5F

TEL 03-5348-6109

<http://www.ap-nishishinjuku.com>



【道順】新宿駅西口より徒歩7分

西口の改札を出たら地上へ出てます。

駅を背中にロータリーを右に進みます。

駅前のその通りが小滝橋通りですが、

その通りをまっすぐです。

まずは、小田急ハルク&ビックカメラとユニクロの間を進み、

大きな交差点、新宿大ガード西交差点も越え、その次の信号の角に

薬局のセイジョーがあります。

そのビルの5階が会場です。